

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

1. 大阪府内で初の教育系専門学科である教育文理学科(単科)を有する高校として、高い志を持ち、次世代の大阪を創生する人材を育成する。
2. 主体的に学ぶ力、コミュニケーション力、課題解決力、情報活用能力、未来を切り拓く想像力を育成する。
3. 幼稚園や小学校、中学校などの教育機関における現場実習や地域・企業と連携した体験実践学習をおこなうとともに、対話や協働・体験を通して教育や英語、自然科学や情報といったそれぞれの分野で将来リーダーシップを育成・発揮できる探究活動の充実に取り組む。

2 中期的目標

1. 「心身の健康と安全を自他ともに保持増進する力」の育成
 - (1)心身の健康と安全確保について生徒が自分自身だけでなく、他者に対しても説明したり働きかけたりすることができるようになるための教育の推進
※生徒向け学校教育自己診断における「学校へ行くのが楽しい。」の肯定的回答率 80%以上を維持。(R4:85% R5:86% R6:84%)
※生徒向け学校教育自己診断における「防災訓練等を通じて、災害時にどのように行動したらよいか理解している。」の肯定的回答率 80%以上を維持。(R6:82%)
2. 「視野を広げ課題を発見し科学的にアプローチすることで解決につなげる力」の育成
 - (1)主体的・対話的な授業づくりを学校全体で推進し、各教科科目において探究的な学びを生み出す授業を工夫することで、科学的手法の習得と学ぶ意欲を高める学習へと発展させる。
ア 校内研修や相互授業見学週間、研究授業等の充実を通して、授業改善の取り組みを推し進める。
※生徒向け学校教育自己診断における「教え方に工夫をしている先生が多く、学習意欲が高まった。」の肯定的回答率 80%以上を維持。(R4:86% R5:83% R6:83%)
※生徒向け学校教育自己診断における「授業では、実験・観察・実習をしたり、学校外へ見学に行く機会がよくある。」の肯定的回答率 70%以上を維持。(R4:64% R5:69% R6:75%)
 - (2)高大連携行事を充実させ、将来の目標に向かって主体的かつ積極的に行動する力を育成する。
※生徒向け学校教育自己診断における「高大連携事業や外部との交流が、自分の知識を広げ、進路選択に役立っていると感じる。」の肯定的回答率 80%以上を維持。(R5:79% R6:84%)
 - (3)学校図書館をはじめとする教育資産を活用して、視野を広げ自らの生き方を考えさせるキャリア教育を推進することで学習意欲の向上を図る。
※生徒向け学校教育自己診断における「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定的回答率 80%以上を維持。(R5:88% R6:89%)
 - (4)地域に開かれた学校づくりの推進並びに北区を中心とした近隣校との異校種間連携を充実させ、地域行事への積極的参加を図る。
 - (5)姉妹校との国際交流を充実させ、国際的な視野を養い、他の国や文化を尊重し、高い志を持ち未来を切り拓く主体性のある人物の育成に努める。
ア 留学生との交流を深め、多様な文化を享受する取り組みを実施するとともに、外部講師を招聘して多文化理解を充実させ、さらに ICT 機器を活用してリアルタイムで姉妹校と交流を図ることで、生徒たちが主体的に異文化に触れ、多文化共生の意識を育む
※生徒向け学校教育自己診断における「国際交流が充実しており、多様な視野や価値観を得られる環境にあると感じる」の肯定的回答率 80%以上を維持(R6:95%)。
 - (6)進路指導の充実
ア 講習や補習、学習強化期間を含めた進路行事を充実させ、生徒が積極的に進路開拓に向けて努力し、文系・理系それぞれの分野で将来リーダーシップを発揮できるように、新たな経験に積極的に挑戦し、未来を切り拓くための創造力を養う。
※国公立大学及び難関私立大学(関関同立・産近甲龍・外国語大学)の現役延べ合格者数 120 名以上をめざす。
3. 「高いコミュニケーション能力、情報活用能力を身につけることで、人権を尊重し相互理解に努める力」の育成
 - (1)コミュニケーション能力、情報活用能力、課題解決能力、未来を切り拓く創造力並びに情報リテラシーを教科横断的な視点に基づき育成する。
※生徒向け学校教育自己診断における「教育活動を通じて、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた。」の肯定的回答率 90%以上を維持。(R5:93% R6:94%)
 - (2)体験活動や地域連携、学校行事、部活動などへの参加を通じて、人や社会とのつながりを考え、自己の可能性を伸ばし、よりよく他者と共生し社会に参画する態度を養う。
ア 生徒が主体的に学校行事等に関与できるよう生徒会活動を活性化させる。
※生徒向け学校教育自己診断における「生徒会活動は、活発であり、生徒が主体的に学校行事等に参加できる」の肯定的回答率 80%以上を維持。(R4:81% R5:79% R6:87%)
イ 人権尊重の学校づくりを進めるため、人権教育及び人権啓発に関する正しい理解を深めるために外部講師を招いた講話の実施とともに、いじめを無くす取組を積極的に行う。
※生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定的回答率 80%以上維持(R6:95%)
ウ 校則に関して、生徒が主体的に考えられる場をつくり、生徒自身が考え行動し、自主的に取り組めるよう努める。
※生徒向け学校教育自己診断において「学校生活についての先生の指導は納得できる。」の肯定的回答率を 80%以上をめざす。(R4:79% R5:77% R6:81%)
4. 「チーム桜和」を支える教員力の向上
 - (1)学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化するとともに、「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」等を踏まえた生徒・教職員の健康管理体制の充実
 - (2)連携大学との交流を通じ、専門学科の特色を最大限発揮するための実践教育を推進する。
ア スクールミッションやスクールポリシー等のビジョンを明確にし、特色ある教育の実現に向けて取り組む。
※教職員向け学校教育自己診断の「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている。」の肯定的回答率 90%以上を維持。(R4:96% R5:100% R6:98%)
 - (3)生徒が体系的・計画的に学習をすすめていけるようICTの活用を充実させる環境づくり
※生徒向け学校教育自己診断における「学校は1人1台端末を効果的に使用し、積極的に ICT 機器を活用しようとしている。」の肯定的回答率 90%以上を維持。(R4:94% R5:95% R6:94%)
 - (4)教育センターの研修等を活用し、ICT等を活用した校務の効率化により、教職員の事務作業に係る時間軽減及び生徒と向き合う時間の拡充
※教職員向け学校教育自己診断における「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている。」の肯定的回答率 80%以上を維持する。(R5:90% R6:91%)
 - (5)学校の特色について、教職員間における共通認識に基づく広報活動の充実を図るとともに、保護者や地域等との連携を推進する。
※教職員向け学校教育自己診断における「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている。」の肯定的回答率 80%以上を維持する。(R5:100% R6:98%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>I. 全体評価(総括)</p> <p>① 学校生活の満足度・安心感 生徒の「学校へ行くのが楽しい」は86.6%、保護者の「子どもが学校へ行くのを楽しみにしている」は86.2%と、いずれも高い肯定率を示しており、学校経営計画の目標は、一定程度達成されていると評価できる。一方で、数値上は高評価であるものの、すべての生徒が十分な安心感を実感できているとは言い切れない状況も読み取れることから、個々の生徒の声により丁寧に向き合う体制の強化が今後の課題である。</p> <p>② 授業改善・学力向上 授業に関する項目では、生徒の「学校の授業は充実しており、満足できる」が88.9%、教職員の「指導方法の工夫・改善」が98%となっており、教職員の授業改善への意識は高く、生徒にも一定反映されているといえる。しかし、「課題が多い」といった意見が複数確認され、量的負担の調整や課題の質の再検討を含めた授業改善の深化が求められる。</p> <p>③ 探究活動・表現力育成 探究活動に関する評価は極めて高く、生徒の「発表の機会がある」は97.1%、「探究活動に主体的に取り組んでいる」は94.5%となっており、本校の教育活動の中核として探究学習が定着していることが数値として明確に示された。</p> <p>④ 進路指導・キャリア教育 進路指導に関しては、生徒の「きめ細やかな進路指導」が92.0%、保護者の「進路に関する指導の充実」が86.6%と、高い評価を示しており、本校の系統的なキャリア教育が一定の成果を上げていると考えられる。</p> <p>⑤ ICT活用・国際教育 ICT活用に関しては、生徒の肯定率95.3%、教職員100%と非常に高い評価が得られ、国際交流・国際理解に関しても生徒97.2%、保護者97.6%と高水準にあることから、本校のICT教育および国際教育は学校の特色として確立しつつある。</p> <p>⑥ 規律・校則・学校運営への参画 規律や指導に関する項目では、生徒の「指導は納得できる」が84.8%、保護者の「生活指導の方針に共感できる」が90.6%、教職員の「教育活動について日常的に話し合っている」が94.0%と比較的高い評価が得られたものの、生徒の自由記述には「校則の理由が分からない」「不公平感がある」といった意見も確認され、規律の妥当性そのものよりも、説明や合意形成の不足が課題として浮かび上がった。</p> <p>⑦ 総合評価 以上の結果から、本校は探究活動、ICT活用、進路指導、人間関係形成といった分野において、生徒・教職員・保護者の三者から高い評価を得ており、学校経営計画に掲げた重点目標の多くが着実に成果を上げていると評価できる。一方で、相談体制の実効性、授業における学習負担の適正化、校則の納得性といった点については、数値の差異や自由記述から課題が明確に示されており、次年度以降の学校経営計画において重点的に改善を図るべき領域であると考えられる。</p>	<p>【第1回】令和7年7月7日</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校経営・教育内容 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学科の特色：教育文理学科の強みを明確化し、探究活動の外部発信を強化する。 ○ 読書活動：本からの学びを重視し、ビブリオバトルを継続実施する。 ● 国際交流・留学 <ul style="list-style-type: none"> ○ 留学内容：9週間の留学プログラムにおける具体的な学習活動と留学生の授業内容を確認。 ○ 社会情勢：米国政権交代による大学進学ルートへの影響についての確認。 ● 進路・生徒実態 <ul style="list-style-type: none"> ○ 入試概況：一般選抜挑戦者90名超を評価。総合型選抜・指定校推薦・英検受験状況を共有。 ○ 生徒背景：アルバイト従事者が多い背景と、定員状況の相関について注視。 ● 生活指導 <ul style="list-style-type: none"> ○ 遅刻対策：増加傾向にある遅刻に対し、保護者会での実態共有や個別・全体の峻別による指導を行う。 <p>【第2回】令和7年12月4日</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教育活動・方針 <ul style="list-style-type: none"> ○ AI活用：利活用の方針策定と、不正利用等の負の側面への対策を講じる。 ○ 学校教育自己診断：否定的回答に対し、具体的な改善・フォローの実施内容を共有。 ○ 学習指導：冬季集中勉強会を通じ、学習習慣の定着と長時間学習への耐性を育成することを共有。 ● 入試・進路 <ul style="list-style-type: none"> ○ 入試形態：本年度は一般選抜5割、指定校推薦入試2割、公募制推薦入試等3割。面接対策の計画的実施により生徒の表現力を向上していることを共有。 ● 生徒指導・不登校支援 <ul style="list-style-type: none"> ○ マナー教育：自由な校風を維持しつつ、行事(ハロウィン等)のゴミ問題などモラル教育を強化することを確認。 ○ 支援体制：北稜中学校では「スペシャルサポートルーム」設置3年目。専任配置による登校支援の成果と課題を共有。 ● 委員長まとめ <ul style="list-style-type: none"> ○ 国際交流と外部連携を評価。一方で、教員の業務集中是正と働き方改革の推進を要望。 <p>【第3回】令和8年2月24日</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学習課題の負担軽減 <ul style="list-style-type: none"> ○ 状況：ICTによる通知集中が負担感の一因。提出時期の調整を検討。 ● ICT・生成AI対応 <ul style="list-style-type: none"> ○ 現状：デザインツール等を用いたプレゼン作成に活用。AI利用は次年度以降、情報リテラシー教育とセットで体制構築。対面・体験的学びの価値も堅持する。 ● 生徒指導・校則見直し <ul style="list-style-type: none"> ○ 校則：指導の公平性を担保。他校事例も参考に、年度末を含めた継続的な校則見直しを行う。 ● 意見交換・その他 <ul style="list-style-type: none"> ○ 広報：部活動の活発さをさらに発信。 ○ 交通安全：自転車通学者の交通ルール指導を徹底。 ○ 留学生受入れ：住宅事情を考慮し、受入れ家庭の確保に向けた柔軟な形態を検討。

府立桜和高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R6年度値]	自己評価
1 心身の健康と安全を保持増進する力の育成	(1) 心身の健康と安全確保について生徒が説明したり働きかけたりすることができるようになるための指導の充実 (2) 高校生活における課題に対する取組の充実 (3) 人権教育の推進	(1) ・衛生管理や救命救急に関する指導のため、校内において救命講習用人形やAEDトレーナーを常備し、教員研修及び教育課程外での生徒指導の機会を設けて、生徒に知識とスキルを身につけさせる。 ・薬物乱用防止教室、交通安全教育等に応じた視点で取組み、生徒の知識とスキルを高めるため、外部講師を招く講演会を計画的に実施する。 ・18歳成人を踏まえ、消費者・主権者教育の推進を図るため、外部講師を招く講演会を計画的に実施する。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携により、課題を抱える生徒への理解を深め、対応の方法等知識を高めるための教員研修を実施する。 (2) 中退・不登校・進路選択の不安・高校生活に関する諸課題について、スクールカウンセラーと連携しながら、定例の検討会を開催する。 (3) いじめ等や生活指導上における事象が発生した時の組織的な対応	(1) ・生徒ならびに教員対象の救命救急講習会を実施する。 [教員・生徒ともに1回ずつ] ・外部機関等から講師を招き、講演会を年1回以上実施する。 [2回実施] ・主権者教育推進のために外部機関等から講師を招き講演会を年1回以上開催する。 [1回] ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、諸課題への理解を深めるための教員研修会を年1回以上実施する。 [3回] (2) ・生徒向け学校教育自己診断における「悩みや相談に親身になってくれる先生が多い。」の肯定的回答率80%以上を維持する。[80%] (3) ・教職員向け学校教育自己診断における「いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる。」の肯定的回答率80%以上を維持する。[98%]	・7/11生徒対象、7/17教職員対象救命救急講習実施[○] ・11/9天満警察より安全講習会(全学年)10/29献血セミナー(3年)10/22薬物講習(2,3年)[○] ・9/1財政教育プログラム9/29大阪司法書士会法律講義10/3大阪弁護士会模擬裁判11/17大阪府議会出前授業[◎] ・スクールカウンセラーの来校時に毎回担任等と情報共有、ならびに研修を行った。[○]
2 解決につながる力の育成	(1) 探究的な学びによる科学的手法の習得と学ぶ意欲を高める学習 (2) 高大連携行事の充実によるキャリア教育の推進 (3) 学校図書館の活用ならびに教育環境の整備 (4) 北区を中心とした近隣校との異校種間連携の充実 (5) 国際的視野を養い、多文化理解を図る力の育成	(1) 探究活動等における学びを通して、他者とのかわりについての考察を深める科学的手法を教授し、教員自らも日々指導方法について自己研鑽に励み、資質・能力の向上に努める。 (2) ・将来の目標に向かって主体的・積極的に行動する力を育成するキャリア教育推進のため、積極的に大学との連携を行い、大学訪問等含めて交流を深める。 ・インターンシップ等に大学生を招き、生徒との積極的交流を図る (3) 学校図書館等の教育資産を活用し、視野を広げ自己の生き方を考察させ、学習意欲の向上を図るため、学校図書館の教育環境を整備する。 (4) ・「教育ボランティア」にて積極的に異校種間連携ならびに教育関連施設において体験実習を行う。また、令和6年度「教育体験」実施校との連携を進める。 ・地域行事等に積極的に参加する。 (5) ・姉妹校からの留学生との積極的な交流や、大学や外部機関との連携を進める。 ・ICT等を活用し、姉妹校等とのリアルタイムな交流を図る。	(1) ・生徒向け学校教育自己診断における「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」の肯定的回答率80%以上を維持する。[84%] (2) ・探究学習の成果発表の場として、保護者や他校生徒など外部を招いた発表会を実施する。 ・大学や外部機関との連携授業を年10回以上実施する。[12回] (3) ・ビブリオバトルを通じて、本に対する興味関心を引き出すよう取り組むとともに、各種プレゼンに取り組む。[1年1回、3年1回実施] ・生徒向け学校教育自己診断における「教室・特別教室・運動場などは、授業や生活がしやすいように整備されている。」の肯定的回答率90%以上を維持する。[85%] (4) ・生徒向け学校教育自己診断において「授業や部活動、学校行事などを通して、ほかの学校や幼稚園・保育園などと交流することがある。」の肯定的回答率を80%以上にする。[74%] ・支援学校との交流を年に1回以上実施する。[2回] (5) ・大学等から外部講師を年に2回以上招聘し、多文化理解の充実を図る取り組みを行う。 ・英検1級～2級の新規取得者30名。 ・姉妹校等とのオンライン交流を1回以上実施する。	・88%[◎] ・11/8探究EXPO2025in桃山学院大学を開催。公立高校7校が集まる大きなイベントとなった。[◎] ・大阪成蹊大学(スポーツ医科学連携、美術、理数情報コース)、大阪公立大学(2年教職教育コース)、大阪市教育委員会(2年教職教育コース)などと連携し、出前授業を行った。また、大阪教育大学連合教職員大学生受け入れ(6名)、大阪教育大学コラボレーション演習受け入れ(5名)、大阪大学、大阪公立大学(探究ボランティア)、桃山学院大学インターンシップ受け入れ(5名)[12回][◎] ・1年1回、3年1回実施[○] ・91%[○] ・79%[△] ・住之江支援学校より出前授業2回[○] ・大阪市総合教育センター、大阪教育大学、大阪観光局[○] ・英検1～2級新規取得者56名[◎] ・4回実施[◎]

府立桜和高等学校

3 人権尊重・相互理解に努める力の育成	<p>(1) 教科横断的な視点に基づくコミュニケーション能力、情報活用能力等の育成</p> <p>(2) 他者とよりよくつながる態度を養う</p> <p>(3) よりよく社会に参画する態度を養う</p>	<p>(1) ・教科横断的な視点に基づくコミュニケーション能力等の育成を図るため、積極的に授業公開を進め、情報交換を活発に行う。</p> <p>・相互授業見学週間の継続的な実施</p> <p>(2) 人や社会とのつながりについて考察を深めさせ、自他の存在の価値に気づかせるため、体験活動や地域とかかわる機会を全教職員で探し設定する。</p> <p>(3) 学校行事に対して、生徒が主体的に関与し、部活動に意欲をもって取り組む環境づくりを推進するため、生徒会を中心に学校行事を活性化させ、外部との積極的な交流を図る。</p>	<p>(1) ・STEAM的手法を用いて、多角的・教科横断的な視点に基づく授業を実施する。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断において「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」の肯定的回答率90%以上を維持する。[95%]</p> <p>(2) ・生徒向け学校教育自己診断における「授業や部活動などで、保護者や地域の人々とかかわる機会がある。」の肯定的回答率を70%以上にする。[74%]</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断における「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣にしてくれる」の肯定的回答率80%以上を維持する。[88%]</p> <p>(3) ・生徒向け学校教育自己診断における「学習と部活動の両立に向けて取り組んでいる。」の肯定的回答率80%以上を維持する。[85%]</p> <p>・部活動外部指導員の積極的な活用や部活動大阪モデルを通して、勤務時間の是正を積極的に図り、教員一人あたりの時間外在校等時間を月平均45時間未満にする。</p> <p>・学期に1回のクラブ表彰の実施や大会以外の発表の場を年に1回は必ず設け、生徒・顧問のモチベーションの維持に寄与する。[10回]</p>	<p>・6/14教育庁、steAm社とワークショップ交流会を実施、8/3-8/6MIRA-GE長崎合宿にて3名参加、7/31起業キャンプ(立命館大学)に3名参加[◎]</p> <p>・97%[◎]</p> <p>・79%[◎]</p> <p>・94%[◎]</p> <p>・88%[○]</p> <p>・26時間41分[◎]</p> <p>・10回[◎]</p>
4 「チーム桜和高校」を支える教員力の向上	<p>(1) 生徒・教職員の健康管理体制の充実</p> <p>(2) 連携大学をはじめ各大学と連携して教育文理学科の特色を最大限発揮するための実践研究の推進</p> <p>(3) ICTの活用を充実させる環境づくり</p> <p>(4) ICT等を活用した校務の効率化</p> <p>(5) 広報活動の充実、保護者や地域等との連携を推進する</p>	<p>(1) 学校保健委員会、安全衛生委員会の活性化を図り、生徒・教職員の自他ともに健康への配慮ができる態度を育てる。</p> <p>(2) 「教育探究」の授業実践の結果から、よりよい授業に向けた方法を考察する教職員研修を外部の支援を得て実施するとともに、令和6年度よりはじまる「教育体験」等の教育計画を作成する。</p> <p>(3) 教職員ICT委員会、生徒ICT委員会を常設し、通信環境の整備と1人1台端末の効果的な使用方法の共有を図る。</p> <p>(4) 教育センターの研修等の活用、教材等のコンテンツや進路情報の共有を進め、業務の効率化を図るための情報環境を整備する。</p> <p>(5) ・学校説明会や学校HP等を通じて、中学生やその保護者、地域に積極的に創意工夫を生かした魅力発信を行う。</p> <p>・生徒ボランティア(サクラティア)の積極的な活用</p>	<p>(1) ・教職員の年間1人当たりの平均時間外在校時間を400時間以内にとすること維持する。[322時間(4~1月)]</p> <p>(2) ・連携大学等から教授を招き、教育実践における最新の研究に関連する講義を年3回実施する。[6回]</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断の「生徒の実態をふまえ、参加体験型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている。」の肯定的回答率90%以上を維持する。[100%]</p> <p>(3) ・ICT委員会(生徒・教職員)によるICT活用研修を年2回以上実施する。 [生徒2回 教職員3回]</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断における「コンピューター等のICT機器が、授業などで活用されている。」の肯定的回答率90%以上を維持する。[98%]</p> <p>(4) ・教職員向け学校教育自己診断における「この学校では、府教育センター等が主催する研修に計画的に参加する体制が整っている。」の肯定的回答率80%以上を維持する。[84%]</p> <p>(5) ・学校説明会を年5回以上、学校HPの更新回数を300回以上とする。</p> <p>・中学校への出前授業を10回以上実施し、中学校におけるキャリア教育へ積極的に貢献する。 [28回]</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断における「学校のホームページをよく見る」の肯定的回答率70%以上を維持する。[62%]</p> <p>・保護者参観weekを年1回設け、保護者向け学校教育自己診断における「学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」の肯定的回答率80%以上を維持する。[84%]</p>	<p>・320時間[◎]</p> <p>・6回 7/15大阪成蹊大学「海外の教育情勢」 9/2大阪公立大学「特別活動の教育的意義」[◎]</p> <p>・98%[○]</p> <p>・生徒2回 教職員3回[◎]</p> <p>・100%[◎]</p> <p>・76%[○]</p> <p>・311件の記事更新[◎]</p> <p>・22件[◎]</p> <p>・57%[△]</p> <p>・84%[○]</p>